

多くの関係者が参加した技術セミナー

アスベスト

動向と処理技術でセミナー

新エネ研
東日本 溶融実証見学会も

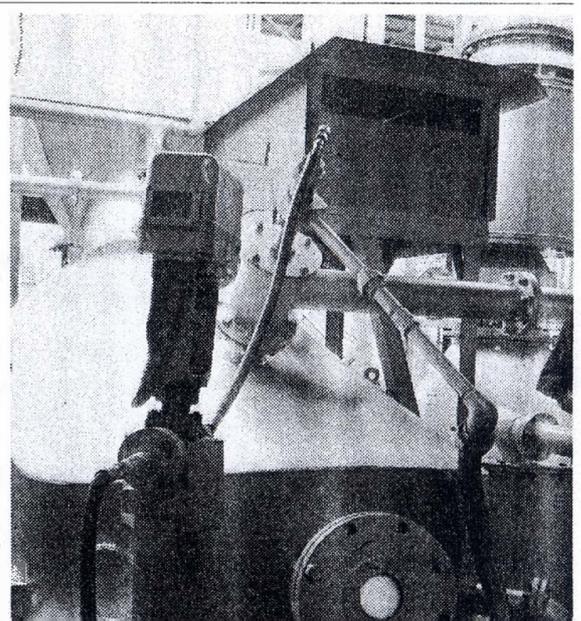
エネルギーや環境問題に取り組むNPO法人の新エネ研究会東日本（小島四朗理事長）はこのほど、「アスベストの動向と処理技術」最新技術セミナーを開催した。また、セミナー開始前には日本環境保全（茨城県牛久市、

古渡周作社長）の溶融炉によるアスベスト廃棄物溶融実証の見学会も実施した。セミナーではイオンド大学客員特別研究員石川禎昭氏が「灰溶融技術の課題と動向」と題して講演、灰溶融技術やアスベ

スト処理の動向について説明した。石川氏は灰溶融の課題として①灰一時的な処理コストは高価、省エネルギー対策が必要②溶融灰のリサイクル（山元還元）を軌道に乗せるのを検討すること③自動化技術をごみ焼

却プラントレベルにすることなどを挙げた。見学会が行われた日本環境保全の実証試験は、バーナー式溶融炉でアスベストの無害化処理を実現するもので、水と油のエンマルジョン燃焼（内部混合型バーナー）を採用し

たのが特徴となっている。処理能力は一時間当たり二〇〇kg（最大五〇〇kg）の小型炉で、一五〇〇度以上の高温で溶融処理する。小型でエンマルジョン燃焼を採用することで、高温でも比較的コストを抑えることが可能という。



ご注意

過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。

日本環境保全株式会社

溶融トはス向た。

第一号

今年春

来年度

に向けた

向た。